【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成22年1月21日(2010.1.21)

【公表番号】特表2009-517102(P2009-517102A)
【公表日】平成21年4月30日(2009.4.30)
【年通号数】公開・登録公報2009-017
【出願番号】特願2008-541649(P2008-541649)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｎ　1/05　(2006.01)
Ａ６１Ｎ　1/36　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｎ　1/05
Ａ６１Ｎ　1/36

【手続補正書】
【提出日】平成21年11月24日(2009.11.24)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
骨盤底複合体の筋組織の神経筋電気刺激のための圧縮可能な膣又は肛門用電気刺激電極であって、本体と、前記本体の外面のところ又はこの外面上に配置された少なくとも２つの導電性要素とを有し、前記本体は、前記電極を圧縮したときに前記導電性要素を前記電極本体の内部に向かって可逆的に圧縮することができるよう少なくとも１つの寸法が実質的に可逆的に圧縮可能である、圧縮可能な電極。
【請求項２】
前記電極のその非圧縮形態における寸法は、前記電極が前記膣又は肛門内の所望の場所にそのまま位置している場合、前記電極の外面及び前記電極の前記本体の前記外面のところ又は前記外面上に配置された導電性要素が、前記膣又は肛門の１つ又は２つ以上の表面と接触するようなものである、請求項１記載の圧縮可能な電極。
【請求項３】
前記本体は、弾性変形可能／圧縮可能な材料で作られている、請求項１又は２記載の圧縮可能な電極。
【請求項４】
前記本体は、前記本体の製作のための弾性変形可能／圧縮可能材料の使用と前記電極の構造の性状の組合せに起因して圧縮可能である、請求項１又は２記載の圧縮可能な電極。
【請求項５】
前記本体は、弾性変形可能／圧縮可能材料で作られ、前記電極本体の内部は、中空である、請求項４記載の圧縮可能な電極。
【請求項６】
前記圧縮可能な電極の前記本体は、前記電極の内部コンポーネントを包み込むよう前記内部コンポーネントの周りに成形される、請求項１～５のうちいずれか一に記載の圧縮可能な電極。
【請求項７】
前記本体は、前記圧縮可能な電極の製造中、前記内部コンポーネントが収納される中空内部を有する、請求項１～６のうちいずれか一に記載の圧縮可能な電極。

【請求項８】
前記電気刺激電極の形状は、前記肛門又は膣内への挿入軸線に垂直に取った断面で見て、前記電気刺激電極をこれが本来の位置にあるときには前記挿入軸線回りに自由には回転させることができないようなものである、請求項１～７のうちいずれか一に記載の圧縮可能な電極。
【請求項９】
前記電極の形状は、前記肛門又は膣内への挿入軸線に垂直に取った断面で見て、非円形である、請求項１～８のうちいずれか一に記載の圧縮可能な電極。
【請求項１０】
前記電極本体の寸法は、前記挿入軸線に垂直な寸法と比較して、前記挿入軸線に沿って大きい、請求項１～９のうちいずれか一に記載の圧縮可能な電極。
【請求項１１】
前記圧縮可能な電極は、非圧縮状態にある前記電極の寸法に比例して互いに異なる相対的寸法に圧縮可能である、請求項１～１０のうちいずれか一に記載の圧縮可能な電極。
【請求項１２】
前記電極は、前記挿入軸線に垂直であって、互いに異なる圧縮性の度合いを備えた少なくとも２つの寸法を有する、請求項１～１１のうちいずれか一に記載の圧縮可能な電極。
【請求項１３】
前記電極は、前記非圧縮状態では、長さが３０～１２０ｍｍ、好ましくは４０～１００ｍｍ、より好ましくは４５～７５ｍｍ、最も好ましくは５０～６５ｍｍである、請求項１～１２のうちいずれか一に記載の圧縮可能な電極。
【請求項１４】
前記電極は、前記非圧縮状態では、前記挿入軸線に垂直であって、３０～６０ｍｍ、好ましくは３５～５５ｍｍ、最も好ましくは３５～５０ｍｍの少なくとも２つの互いに等しい寸法又は少なくとも２つの互いに等しくない寸法を有する、請求項１～１３のうちいずれか一に記載の圧縮可能な電極。
【請求項１５】
前記電極の長さは、前記非圧縮状態では、前記圧縮状態の前記電極の長さに等しい、請求項１～１４のうちいずれか一に記載の圧縮可能な電極。
【請求項１６】
前記挿入軸線に垂直な前記電極の前記寸法のうちの少なくとも１つは、少なくとも２０％、より好ましくは少なくとも４０％、より好ましくは少なくとも５０％、最も好ましくは少なくとも６０％だけ圧縮時に減少可能である、請求項１～１５のうちいずれか一に記載の圧縮可能な電極。
【請求項１７】
前記挿入軸線に垂直な前記電極の前記寸法の全ては、少なくとも１５％、好ましくは少なくとも２５％、より好ましくは少なくとも３５％、最も好ましくは少なくとも４０％だけ圧縮時に減少可能である、請求項１～１６のうちいずれか一に記載の圧縮可能な電極。
【請求項１８】
前記圧縮状態における前記電極の体積は、前記非圧縮状態における前記電極の容積と比較して、少なくとも２０％だけ減少し、好ましくは、少なくとも２５％だけ減少し、より好ましくは少なくとも３０％だけ減少し、より好ましくは少なくとも４０％だけ減少し、より好ましくは少なくとも５０％だけ減少し、最も好ましくは少なくとも７５％だけ減少する、請求項１～１７のうちいずれか一に記載の圧縮可能な電極。
【請求項１９】
前記挿入軸線に垂直な前記電極の寸法は、前記圧縮状態において、幅が１０～３５ｍｍ、好ましくは１０～３０ｍｍ、最も好ましくは１５～２０ｍｍであり、前記圧縮状態の前記電極の高さが１０～４０ｍｍ、好ましくは１０～３５ｍｍ、より好ましくは１０～３０ｍｍ、最も好ましくは１５～３０ｍｍであるようなものであるのが良い、請求項１～１８のうちいずれか一に記載の圧縮可能な電極。

【請求項２０】
前記圧縮形態における前記電極の形状は、タンポンの形状にほぼ等しい、請求項１～１９のうちいずれか一に記載の圧縮可能な電極。
【請求項２１】
前記電極は、
ａ．前記電極を圧縮形態で収納したアプリケータを前記膣又は肛門の開口のところに位置決めし、そして、
ｂ．前記電極を前記アプリケータから前記膣又は肛門内に送り出して前記膣又は肛門内での前記電極の膨張を可能にすることによって、前記肛門又は膣の内腔内に配備されるようになっている、請求項１～２０のうちいずれか一に記載の圧縮可能な電極。
【請求項２２】
前記アプリケータは、前記圧縮状態の電極を収納する中空本体を有する、請求項２１記載の圧縮可能な電極。
【請求項２３】
骨盤底複合体の筋組織の刺激のための電極キットであって、外側部材及び内側部材を有するアプリケータと組み合わせた状態で圧縮可能な電極を有し、前記電極は、前記外側部材内に収納されている、電極キット。
【請求項２４】
前記導電性要素は、前記電極の前記内部コンポーネントの一部として形成されるのが良く、前記電極の前記本体に設けられたオリフィスを介して前記電極の前記本体の表面のところで露出可能である、請求項１～２３のうちいずれか一に記載の電極。
【請求項２５】
前記導電性要素は、形状がほぼ長方形であり、大体の寸法が２８ｍｍ×１３ｍｍであり、ほぼ１８０°の間隔を置いて前記圧縮可能な電極の反対側の表面のところ又は反対側の表面上に配置される、請求項１～２４のうちいずれか一に記載の電極。
【請求項２６】
前記導電性要素は、環状である、請求項１～２５のうちいずれか一に記載の電極。
【請求項２７】
請求項１～２６のうちいずれか一に記載の圧縮可能な電極のパック。